

## I 水道・下水道の財政状況

水道事業・下水道事業はお客さまからの水道料金・下水道使用料で運営しています。  
令和2年度決算を踏まえた財政状況をお伝えします。

### (水道事業の状況)

令和2年度は、13億5千万円の純利益を確保することができました。

収入の大部分を占める水道料金は、人口の減少や節水意識の定着などにより、前回水道料金を改定した平成6年度をピークに減少傾向となっています。また、昨年度は、新型コロナウイルスの影響により、企業等の大口使用者の水道料金が大きく減少しました。

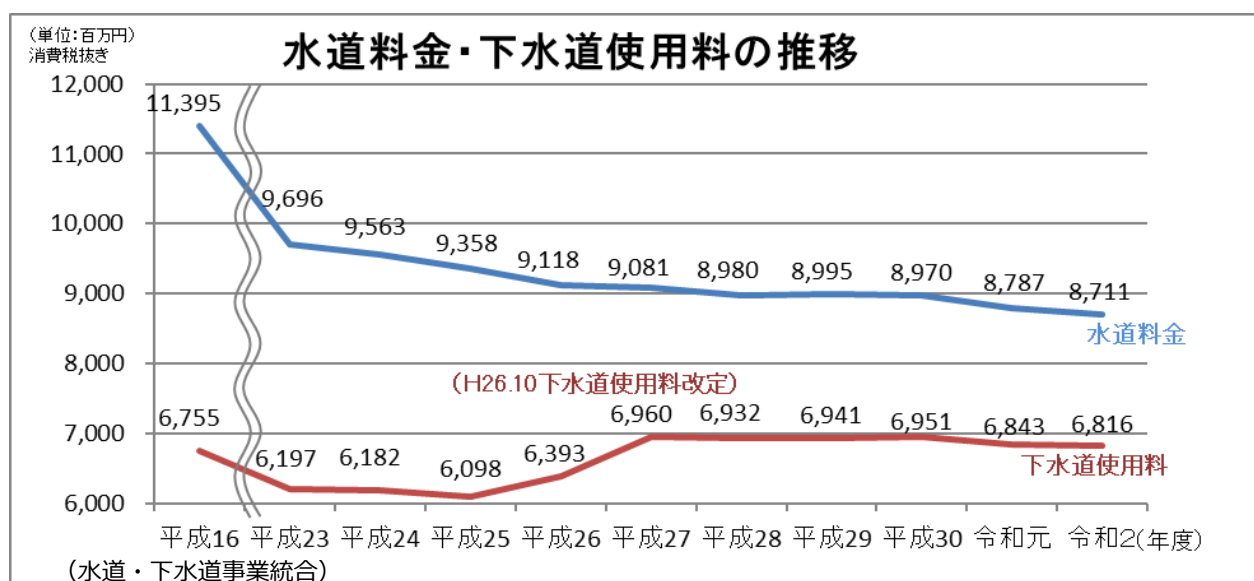
支出については、水道施設の更新費用に充てる減価償却費や、神奈川県内広域水道企業団から水道水を購入する費用の受水費が大きな割合を占めています。

### (下水道事業の状況)

令和2年度は、9億8千万円の純利益を確保することができました。

収入の大部分を占める下水道使用料は、前回、下水道使用料を改定した翌年度の平成27年度をピークに減少傾向となっています。また、昨年度は、下水道使用料においても、新型コロナウイルスの影響により、企業等の大口使用者の下水道使用料が大きく減少しました。

支出については、下水道施設の更新費用に充てる減価償却費や、浄化センターの運転等に係る委託料が大きな割合を占めています。



### (今後の事業運営)

令和2年度は、水道事業・下水道事業ともに純利益を確保できましたが、料金収入の減少や、古くなった施設の更新費用及び維持管理費用の増加により、経営は、ますます厳しくなることが見込まれています。

水道事業・下水道事業は、ライフラインとしての役割を果たし続けるため、人口減少等による水需要の減少に合わせた施設の統廃合など（水道事業は半原水源系統を廃止。下水道事業は上町浄化センターを廃止。）で支出の適正化を図り、効率的な事業運営を進めてきました。

これからは、このような経営の効率化とともに、将来にわたり「いつでも安心して使える止まらない水道・下水道」を実現するため、適正な料金制度のあり方についても検討していきます。